

# なみ

9月号  
vol. 211

「うさぎとたぬき」制作…Tさん



制作の様子

## まちびと

特集

第2回  
商店街活性化の  
ヒントを探しに  
布施に行こう

## 探検

近鉄大阪・奈良線布施駅前南北に広がる東大阪最大の布施商店街。日本一大きなえべっさんがある布施えびす神社があることでも有名。



東大阪市にある布施商店街は、商業施設や公共交通機関の利便性が高く、多くの人が訪れる商店街である。規模が大きく、多様な店舗が集まっており、飲食店やファッション、日用品など、幅広いジャンルの店が揃っている。夏には「土曜夜市」、9月には「布施まつり」があり、地元住民や観光客に人気である。特に土曜夜市では商店街の組合員が模擬店を開き、金魚すくいやくじ引きなどの屋台が並ぶ。現在の布施は東大阪市の一部となっているが、地域住民の間では昔ながらの名称で親しまれている。

今回は、その布施商店街に2018年9月25日にオープンしたSEKAHOTEL布施以下、「セカイホテル」に訪問した。セカイホテル布施は、商店街まるごと「まちごとホテル」というコンセプトで、まち全体を一つのホテルに見立て、大阪の下町感あふれる

### 商店街にやってきた新しい「波」

地元西成の鶴見橋商店街も布施商店街と同様に、地域経済を支えている。古くから続く小規模な店舗はアットホームな雰囲気や魅力的で、かつては「鶴見橋商店街の祭り」や「フリーマーケット」などのイベントが毎年開催され、地元の人々に愛されていた。しかし、これらのイベントは現在開催されていない。

顧客減少の要因はさまざまあるだろうが、大型ショッピングモールやインターネット通販の普及が大きい。特に、若年層がオンラインシ

ョッピングに移行することで、商店街の客層が高齢化している点は、どの商店街にも共通する懸念材料である。また、安価な商品を提供するチェーン店の増加により、小規模な個人経営の店舗が価格競争で苦境に立たされ、閉店を余儀なくされる店舗も少なくない。

### 角度を変えれば魅力再発見

セカイホテルは宿泊施設を提供するだけで



空き店舗をリノベーションしたホテルのフロント(コミュニティスペース)

## 第2回

### 商店街活性化のヒントを探しに布施に行こう



# まちびと

## 探検

西成区北西部地域で住まう・働く10代~30代の若者たちが、各地の先進事例から「まちづくり」を学ぶため地域を飛び出し、街や人を探す旅にでる。若者たちの視点から見た北西部地域の課題や各地で行われているまちづくりを探ってみよう。

北川 6年間継続してきたことで、土台ができてきました。布施商店街にはまだまだ空き店舗があるので、今後は客室を増やしていきたいですね。また、平日の稼働率を考えると、外国人観光客を増やしていかなければなりません。現在、外国人の宿泊客は全体の3%と少なく、利用者のほとんどが日本人です。そのため、外国人向けの広報をさらに進めていく必要がありますが、日本

今回宿泊した部屋は4人1室タイプのお部屋



取材を終えて改めて鶴見橋商店街を練り歩いてみた。この20年で商店街も大きく変わってきた気がする。今も変わらず老舗としてある店舗やシャッターが下ろされている場所を見て「昔ここ〇〇屋さんだったなあ」と思いながら、自分子どもの頃の商店街は市

文責：磯拓哉

※「ある人がある相手を助ければ、助けられた相手も必ずこれに応じて、お返しとして助けてくれるだろう」という期待によって成立する相互作用

磯 地域住民・商店街の方々にとのようによりアプローチしていったのですか？  
北川 セカイホテルの考え方として、商店街や地域住民の方々とは、交渉ではなく「互酬関係」※を築くことを重視しています。まずはスタッフ個人が各店舗をお客として体験し、交流しました。こうした交流を通じてセカイホテルという会社や社員の人柄を知ってもらい、連携を深めていきました。

### あの頃のワクワクを取り戻そう

セカイホテルの取材で特に「商店街」という地域の人が集い、商業が集う場所には、仕組みがうまくハマれば地域活性化に大きく寄与することが分かった。高齢化が進み地域自体が疲弊していくところが増えていくなか、「商店街」は地域活性化の拠点になりうる。

最後に、今回の誌面ではセカイホテル布施で体験できるアクティビティすべての紹介はあえて避けた。それは、誌面だけで終わるのではなく、読者の皆さんにも実際に布施に訪れ、セカイホテルを利用し、布施の日常を体験してほしいと思ったからである。友達同士で食べ、飲み歩いてもよし、子どもを連れて家族で楽しむもよし、ひとりですっきりと満喫するもよし、ここでは紹介していない「商店街まるごとまち」とホテルが楽しめるさまざまなプランや仕掛けを用意したすてきなスタッフが出迎えてくれるはずだ。

なく、地域全体をホテルとして捉え地元の魅力を伝える工夫に余念がない。宿泊客に地元のお店を単に紹介するのではなく、商店街での消費活動を「体験」としてパッケージするのである。たとえば宿泊客に発行される商店街「パス」は協力店舗の一つ一つをホテルの施設のように感じさせる面白い仕掛けだ。  
セカイホテルが仕掛ける地元住民と観光客とのこうした交流は、これまでとはちよつとちがった角度から地域コミュニティを活性化させている。それは、いまだ知られていなかった商店街や周辺地域の魅力の再発見につながり、地域経済の活性化に貢献するだろう。

もしセカイホテルの布施商店街での成功が周辺地域にも変化を促し、他の投資家や企業がこの界限で新たな投資や開発プロジェクトを進めるようになれば、一味違う面白い商店街が大阪に生まれるかもしれない。そんな将来像がふと思い浮かんだ。  
ところで、セカイホテルは、なぜ進出する場所に布施商店街を選んだのか、どのようにして商店街との関係性を深めていき、取り組んできたのか。スタッフの北川茉莉さんに尋ねた。

宿泊中は「パス」を首から下げて協力店舗を巡る。宿泊費用に含まれる店舗もあれば割引で利用できる店舗もある。



磯 なぜ布施という場所を選んだのですか？  
北川 当初、セカイホテルは西九条に拠点を置いていました。西九条は公共交通機関での観光地へのアクセスが良好で、付近に魅力的な飲食店や銭湯がたくさんあります。これらと連携することで一棟貸の建物をリノベーションしたホテルに付加価値が付くと考えたのです。しかし、騒音問題などで地域住民に不安を与えてしまうのではないかと感じ、同じような条件で新たな拠点を探していたところ、布施商店街を見つけました。また、近畿大学の学生さん達を巻き込んだSNSの活用も、出店に踏み切った理由の一つです。



夕食は老舗のお店に、お風呂はまちの銭湯へ、朝食は常連客が賑わう喫茶店と商店街がまるごとホテル

きかったです。セカイホテルの出店に際して説明会を行った際、ホテルの計画について説明後に質問を募ったところ、「会社の説明は分かった。ホテルの従業員の人たちはどんな人なのか？」と訊かれました。この問いかけに、布施商店街の方々が人間関係を築いていこうとする暖かい姿勢を感じ、「ここで頑張ろうと改めて思いました。」

# にしなりもん

食いだおれの街・大阪ミナミのさらに南の街・西成。  
まだまだ発掘されていない「にしなりもん」を味わい尽くします。

## 西成と台湾を結ぶ 「台湾中華料理 海鮮館」

最近ものすごくハマった食べ物がある。それは「大鶏排」。さて、何て読むでしょう？

正解は「ダージーパイ」。先日、中華街の屋台の食べ歩きで筆者が見つけた台湾の唐揚げだ。ごまだんごや中華まんなど定番の屋台の中に、昔にはなかった大鶏排がいたる所に売り出されてお



り、食いしん坊の筆者は「顔より大きい！」という謳い文句に釣られ食べてみるとこれが美味しい！美味すぎて後でもう一枚買ったが、サイズが大きくてお腹がパンパンになっても、やめられないとまらない状態だった。

前置きが長くなったが、それからマイブームとなっている台湾料理を求めて、今回訪れたのは「台湾中華料理 海鮮館」。

鶴見橋商店街にある「あの商店街の交差点角にあるところね」と地元の人には知られているお店。筆者は今回ランチが始まる11時30分に開店と同時に邪魔する。

ご飯ものと麺類をそれぞれ頼もうと思いつき、台湾炒飯を見るとメニュー名の横に唐辛子のマークあり。店長さんに「辛いですか？」とお聞きすると「辛いです」との返答。辛い物がそこまで得意ではない筆者（カレーは甘口と中辛の間くらいが好き）は断念して五目炒飯を注文。それに豚骨台湾ラーメンと棒鶏をオーダー。一人で頼み過ぎかなと思っただが、台湾の文化では相手が料

理を残す満足してもらっているということなので、「大丈夫だろう」と無理やり自分自身を納得させて料理を待つ。待つ間に店内を見ると客席は掘りごたつ式の席が5つにカウンターが5席、また個室にもなるテーブル席が2つあり、定員さんの元気な中国語（多分）が飛び交う中、まずは炒飯が到着。続いて台湾ラーメン、棒棒鶏の順でテーブルに並ぶ。何となく横のお客さんが、「すごい頼むな」という顔で見ている気がしながら、まずは炒飯と台湾ラーメンを美食。ラー

メンに入っているひき肉とスープがマッチしていて、注文の際に店長さんに「少し辛いよ」と言われたが、その程よい辛さとも合わさってお箸が進む。そして何より美味しかったのが棒棒鶏。柔らかい鶏肉と甘辛だれが絶妙に合わさって、ポリウムもあり今まで食べた棒棒鶏では筆者の中ではトップランクで、炒飯と一緒に食べ終える。

足して店員さんの「ありがとうございます！」の元気な声に送り出されてお店を後にする。筆者は辛い物が得意ではないので、辛いもの好きな方は、店頭の「特製台湾ラーメンは韓国人も食べられへんほど辛いらしい」という触れ込みの特製台湾ラーメンや特製台湾炒飯を筆者に代わってぜひ挑戦してみしてほしい。また中華街に行かれた際は「大鶏排もぜひご賞味あれ！」

文責：笹川勝正



はお酒と合うだろうなと思う。筆者は開店と同時に入ったが、その後にもお客さんは続いており、店員さんと常連さんが和気あいあいと話をしながら、「今日は何にする？」といった感じで、地元根付いたお店といった雰囲気。

お腹一杯になり満



【田岡秀朋】新しくなった「水木しげる記念館」がオススメ。ゲゲゲの世界だけでなく、その生きざまを語録と共に辿ると平和の有難さ、逆境での処し方がスーッと心に残る。



【笹川勝正】体のことを考えてトマトジュースを毎朝飲み始めて約4カ月が経ちました。今のところ変化はありませんが、さらに半年後の変化をまたここでお伝えします！



【沖田一志】仕事で大量のパスワードを扱うので、全て覚えるのは不可能。パスワードが必要になったら、一瞥を覗いてキーボード入力する。最近では老眼が進んだので、この作業に限界を感じる。



【磯拓哉】8月2日、晴天で迎えた盆踊り大会。今年も大勢の人達が訪れ、盆踊りや縁日を楽しんでいた。その様子を屋台から見て、この取り組みに関われることの素晴らしさを再認識した。

# 些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのマルマル系コラム。

## 『ことばを学ぶ』

識字運動は、1963年福岡県で始まった「開拓学校」をその出発点として、1965年の「部落解放第10回全国婦人集会」での識字運動の取り組み報告などを契機に、大阪・奈良をはじめ全国に広がった。（『焦土の街から』）西成地区では1967年から長橋市民館で識字学級が始まり、翌年には文集『まなび』を発行。現在でははしな隣保館「ゆくとあい」で水曜日「よみかき教室」、木曜日に「日本語教室」を開いている。この二つの教室を合わせた「西成識字よみかき・日本語教室」は、大阪市が設置した民間のボランティアが運営している。市内の他の教室も運営はボランティアに任されており、残念ながら、日本では移住してきた人々が日本語を学習する公的な場所は十分に保障されていない。

私がこの教室に関わりだしたのは2010年である。住吉区の教室にボランティアで参加していた私に「西成の教室で人手が足りないの助けけてもらえないか」と声がかかり、木曜日に参加することにした。木曜日の教室は外国人のための日本語学習の教室。教室の活動は、日本語学習はもちろんのこ

と、学習者の困りごとの手助けやお花見といったレクリエーションなど多様だ。教室に来る学習者には様々な背景がある。日本人と結婚して来た人、国から難を逃れて難民申請をしている人、仕事を求めてきた人、キリスト教の牧師さん、母国を離れて日本で生活を始めてまず必要なのは言葉、日本語である。「日本語が十分に話せないために、家族の中でもしんどい思いをした」という作文があった。日本人男性と結婚して来阪し、女の子も生まれた。小学校高学年になった頃、その子が相談するのはいつも、母の自分ではなく父や祖父だった。彼女はそこを次のように綴っている。

「いちばんさみしいのはむすめがなんかもんだいがあったとき、おとうさんやおじいさんにそうだんして、わたしにはそうだんしてくれなかったことです。にほんごがわからないから、そうだんしてもしかたないとおもったのでしよう。むすめにわたしのきもちをよたえたり、むすめのきもちがわかるよ

に、はやくにほんごをはなせるようになりたいとおもいます」

私が識字・日本語のボランティア養成講座座などで識字・日本語教室の話をするときは、必ずこの作文を紹介することになっている。受講者の前でこの作文を読むとき、いつも胸が熱くなる。

識字・日本語教室では、「えんぴつボスター」に自分の気持ちを書くという活動もしている。ここではそこに書かれた文を二編ほど紹介する。ただ、本当は手書きの文そのものを見てもらいたい。

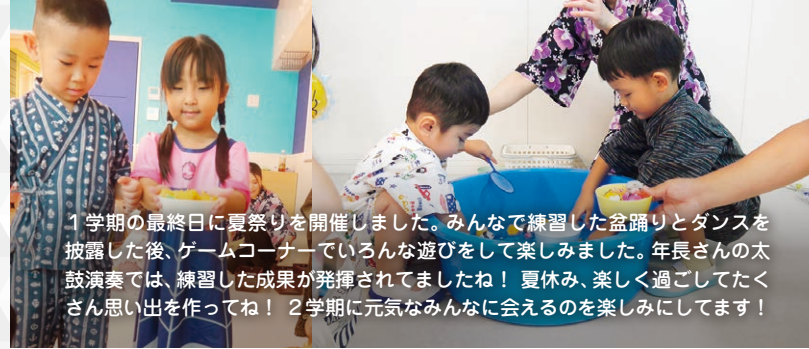
「大人になって初めてまなびが楽しいってことがわかりました。」

「もっとたくさんおぼえたい。もっとたくさんかきたい。」

ややもすれば社会から孤立しがちな人々が、ホッとできて悩みを打ち明け、安心して学ぶことができる場であり続けられるよう、週一回「西成識字よみかき・日本語教室」に通っている。

ハンブレイ・T

※9月8日は国際識字デー。9月は識字月間です。



1学期の最終日に夏祭りを開催しました。みんなで練習した盆踊りとダンスを披露した後、ゲームコーナーでいろんな遊びをして楽しみました。年長さんの太鼓演奏では、練習した成果が発揮されましたね！夏休み、楽しく過ごしてたくさん思い出を作ってくださいね！2学期に元気なみんなに会えるのを楽しみにしています！



大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

## 近ツ橋

### 橋子どもお楽しみ会

夏休みは暑い日が続いたが、楽しいイベントも目白押し。今回は橋小学校で実施され、橋地活協とたちばな子どもお楽しみ会運営委員会が主催する「たちばな子どもお楽しみ会」取材した。同僚とそのお孫さんたちにも同行してもらった。

開催時間前にもかかわらず子どもたちが列をなすほど大賑わい。金券を購入し、焼きそば、フランクフルト、かき氷をはじめ金魚すくいやフリスビー入れくじ引きなど出店も充実。なんとこれらすべてが五〇円という驚きの安さである。

とくに目を引いたのが体育館でのお化け屋敷。屋内は薄暗く、



不気味なお墓や妖怪の置物などワオリティイはかなりのもの。最終地点で待ち受ける怖いお面が襲ってくる、子どもたちは悲鳴をあげ出口へ全力疾走。大人は置き去りである。

「もう一回行こうか」と声をかけると「一人で行って」と一蹴されてしまったが、子どもたちにとっては本当に楽しく思い出に残るイベントだっただろう。



[安田拓也] 自信って？出来る出来ないではなく、自分にウツをつけていないか。自信を持たなければならぬ場面はある。人に何かを伝えるとき。やり切ったか、弱みも吐ききったかという自信はない。



[福井龍磨] ジェイムス・テイラーが1993年に出したライブアルバムが31年ぶりに再発。リマスターで音質も良い。この人の歌に何度救われただろう。思い出を1ページずつめくるように、しみじみと聴いた。



[西田吉志] 毎年、訪れる海水浴場がある。日本最古のうらしまたろう伝説が伝わる神社の側にあるその海水浴場は、透明な水に海岸からの景色、そしてプライベートビーチ感が魅力的過ぎる。



[谷口円] ロゴ制作の仕事の一端で墨汁を購入。墨汁を使うのなんて、もしかすると小学生ぶりくらい？さらに折り紙を切ったり、消しハンを作ったり...ちょっと童心に戻るひとときでした。

# 葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



## 「山ぶどうの葉っぱ」の巻

天候は晴れ、時々スコール。気温は35度の猛暑日。辺りいちめん稲穂の畑。まぶしいぐらゐの緑一色。ぶどう棚を見つけた。ワクワクしながらのぞいた私。大きな葉っぱがぶどうを包む。まるでそれは自然のカートン。まるでそれは自然のゆりかご。山ぶどうが葉っぱにつぶやく。いつもそばに居てくれてありがとう。葉っぱも山ぶどうにこたえる。いつも甘い香りをありがとう。お互い持ちつ持たれつ良い関係。笑みをうかべて見入る私。

赤井まゆみ

鳥取県八頭町大江ノ郷自然牧場で見つけたぶどう棚。大きな葉っぱに陽が当たり、葉軸がしっかり見えました。

# 皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

猛暑の中いかがお過ごしですか？ 熱中症には気を付けていただきたい。さて、パリオリンピックが終わり、選手の皆さんもそれぞれ帰国して歓迎を受けていると思うが、様々な感動をありがとうと言いたい。日本の選手も20個の金メダル獲得という素晴らしい成果を残してくれた。

オリンピックは、スポーツを通じて全世界の人が交流し戦争のない社会を構築するための世界的な平和の祭典であるが、戦争は無くなっていない。華やかなオリンピックの陰で、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルによるパレスチナ攻撃は終わりそうになく、瓦礫の街の映像を見るたびに心が痛む。世界中の政治家や軍の関係者にオリンピックを見てどう思っているのか聞いてみたい。世界中の人の人権が優先される世界を望む。

# い湯かげん

## よみがえる『コリアン調査』

先日、アメリカの社会学者の慎和枝さんが訪ねてくれ、ボクは25年ぶりの再会となった。

にしなり隣保館ゆくとあいを運営している財団法人ヒューマンライツ協会(当時は松岡徹理事)が「西成地区在日コリアン人権意識調査」を実施したのは1997、98年のこと。慎和枝さんは若干25歳で調査の主任となった。調査は237名の在日コリアン住民を一軒一軒訪問する大規模なもので、解放同盟西成支部が青年を中心に100人以上の調査員を動員したのは庄巻だった。その後西成の解放運動やまちづくりを担ってくれた在日コリアンの青年達が幾人も調査に参加した。

慎和枝さんは西成区の被差別部落内に、コリアンコミュニティがいかにか形成されたかと問題を設定した。学術的には「エスニック・エンクレイブ」(移民者の共同体、平たく言えばコリアンタウンの形成史)のようなものだ。

当然西成では、皮革産業と部落解放運動や同和対策が共同体の媒体となった。通説では、住宅闘争に共に参加した(1958年前後の)に、コリアン住民は入居選考で排除されてしまい、以後、次々と実施されていく同和対策個人給付からも排除されたとされるが、慎和枝さんの訪問調査は、松田喜一に入居排除を抗議しついに入居に至った古老の証言や、識字学級からの

排除の是正や教育関係の個人給付の実現といった証言なども引き出していった。1979年に国際人権規約に日本も批准したことで、同和対策でも国籍条項は法的根拠を失ったが、それまでの20年間で、慎和枝さんはエスニック・エンクレイブ(共同体)と「エスニック・アントナゴニズム」(移民排斥)の攻防として描いた。

慎和枝さんの設問はボクにはとても刺激的に思え、20年も経て『詳伝松田喜一』を著すのに、戦前の皮革産業を舞台にした日朝の共同体の抗争を調べた。そこに、北井正一率いる大阪皮革労組と李鐘錫率いるコリアンの阪南労働助会がついに労戦統一に至る史実(1935年頃)や、松田喜一の経済更生会に対するコリアンの厚生会という軌

修繕組合の分立の史実(1937年頃)を新発見できた。当然、慎和枝さんのようにコリアン共同体側からの史実も探したが、李鐘錫を採り当てたまでで、志半ばとなった。さて、在日コリアン25歳の慎和枝さんは、自分は「根なし草」では

と寂しい思いもしてきたが、西成調査で背中を押されたこと記した。米国の大学で社会学の教授となり、近く集大成の書籍を発刊するらしい。和訳されるのを楽しみにしている。慎和枝さんは、時に差別もしたが、西成の解放運動はコリアン共同体の隣人となってくれるはずと結んだ。今回の再会では叶わなかったが、慎和枝さんが当時はなかった隣保館ゆくとあいやインターナショナルスクールを訪問してくれることも楽しみにしている。

『西成在日コリアン人権意識調査報告書』は、ゆくとあいにも僅かだが残部がある。インターネットでも全文を見ることが出来る。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司]パリ五輪を眺めて。「近代」ってやっぱり欧米の価値観が世界標準だった時代。世界中で異議が申し立てられている現代、日本にも「近代」を経た自分たちの価値観が必要かと。

[山村裕太]飲み会の際、離婚をした友だちが「12年ぶり2度目」と高校野球の甲子園出場回数のように報告してきました。久しぶりにビールが口から吹き出そうになりました。

地域の縁を心でつなぐ



# 心の時間

秋の彼岸にちなんで極楽の話を一つ。極楽では一つの身体に二つの頭を持つ「ぐみょうちやう共命鳥」が舞っているそうです。こんな話があります。ある共命鳥は二つの頭が憎しみあい、片方を亡きものにしようと、片方が眠っている間に毒を混ぜ、何食わぬ顔で食べさせました。知らずに食べた方は死にましたが、食べさせた方も身体が一つなので死

んでしまいました。また、お腹を空かせた別の共命鳥は、片方は自ら食べずにもう片方に譲りました。すると譲られた方も譲った方も身体が一つなので、譲って空腹のはずなのにお腹が満たされました。

前者の話から、相手を傷つけることは実は自分自身を傷つけることに他ならず、「いじめ」「戦争」「環境破壊」などは結局、自分自身を傷つける愚かな行いであることが見えます。逆に「私が、私から」「どうぞ、どうぞ」に変わると、自然に「お互い様」「おかげ様」の世界が広がります。

そんな未来の社会を願って、今、種を蒔き、育て、次の世代に託することを生きた証にしたいです。

松向寺 通法

写真は人生の一部が映ったもの。



## ワタリ の1枚

📷 『夏を告げる京野菜』

初夏に京都東山の安楽寺で行われる「鹿ヶ谷カボチャ供養」は、220年続く伝統行事。夏の土用に鹿ヶ谷カボチャを食べると中風にならないという言い伝えがあり、この日は参拝客に無料で提供される。あっさりしているが深みのある味わい。今年も参拝してご馳走になった。私の夏はカボチャで始まる。(編集スタッフ 福井龍磨)

ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。



## ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 9月号 (vol.211)  
発行日: 2024年 9月 1日 (創刊日: 2007年 1月 1日)  
発行: 株式会社ナイス  
住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33  
電話: 06-6563-1150  
E-mail: info@nice.ne.jp  
url: https://www.nice.ne.jp/

編集長: 西田吉志  
編集: 磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、岡岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若司公 (あいっえお順)  
イラスト: hidarimaki、西井亜花梨  
デザイン: 谷口円

(株)ナイス  
ホームページ

